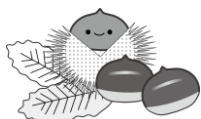


<コラム>

エイムズ唯子の「心理学の周辺」



第6回：「ロマンチックってなんだっけ」の巻



秋の夜長、このところの私のもっぱらの関心事といえば、「ロマンチックってなんだっけ問題」。ウチでは入籍した8月と式をあげた10月の両方をお祝いの口実にしているのですが、今年の8月の記念日はイヌも喰わん、もとい、ダーリンばかりが喰った顛末に。その日私たちはスリランカへ旅行した帰りにマレーシアのクアラ Lumpur で1泊していたのですが、ダーリンは食べる気満々！ホーカーズと呼ばれる屋台街に繰り出し、中華の点心を皮切りにマレー系、インド系と数軒の屋台をはしごして、彼は大大満足、私はとうの昔にご馳走様の気分で、歩き疲れてぐったり。というわけで、私にとってはちっともロマンチックじゃなかった記念日を埋め合わせるべく、自ら10月の企画担当になったものの、はて、改めて考えるとロマンチックってなに？これがなかなか難しい。

まずは肝心のダーリンに聞き取り調査を試みました。

「ねえ、あのさあ、ホーカーズって



もしかして、クリスにとってはロマンチックだったの？」「そうだよ～もちろん！」

「(あ、やっぱり) ええと、それは、どういうところが？」「だってさー、ラクサだよ、本物の」「なんだっけそれ」「最後の屋台で食べたラーメン。あれはおいしかったなー」「でも、それロマンチック？」「魚のダシをちゃんととったスープでさ、おばちゃんがすぐそこで熱々を作ってくれてさ、スパイスがきいてて、あの辛さと奥深いうまみ、サイコー！」「あーねー(=だよ)」「ラクサは、前からずっと食べたかったから。僕にとっては、新しい発見とか、憧れの本物の味、そういうのがロマ

観光客にはロマンチックなサリーも、現地の人にとっては…

のが、現象学のフッサール先生。複数の主観が対話によって共同化

ンチックなんだよね。What about you? What is romantic for you? 「それがさー、考えてるんだけど、意外と出てこないんだよね。ふたりで星空を見上げる、かなあ。星って、今見ている光は何万年も前の光でしょ」「食べ物ロマンチズムと宇宙のロマンチズム、ってわけだね」

この話のどこが心理学の周辺なの、ですって？はい、私もちょうどそれを考えていました。「ロマンチック」の意味を辞書で調べると「現実を離れ、情緒的で甘美な様」とあります。なるほど、普段味わえない東南アジアの庶民の味も、

きらめく星空も、それぞれに現実を離れています。しかし、彼にとってはラクサが甘美でも、私の舌にはちょっと辛すぎたように、なにがロマンチックかを決定するのは、それぞれの主観。ロマンチックのテーマに限らず、あらゆることについて、私たちは主観の世界に生きています。ふたつの主観の世界をつなぐのは「間主観性」であるという、素晴らしくプリリアントな説を唱えなすった

されることによって始めて、両者の意味理解が可能になり、共同体もそこから広がるという考え方です。生徒と先生、妻と夫、子どもと親、クライアントとセラピスト、同僚や仲間同士が、どんな対話を経てお互いに了解可能な意味ある世界をつくり続けているかを思い巡らしてみると、まさにそんな毎日のささやかな営みこそが壮大でロマンチック、なのかもしれませんね。

(高崎健康福祉大学准教授、フォーラム共同研究者)